

アトピー性 皮膚炎

塗り薬だけでなく、
カラダの中からも
アトピーを改善!



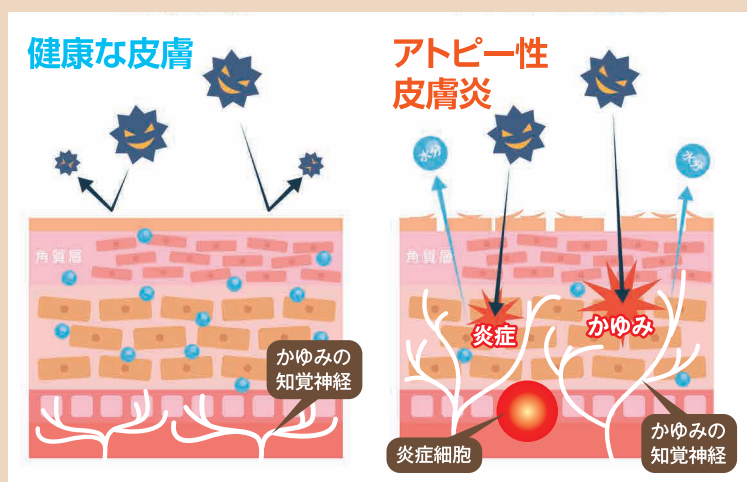
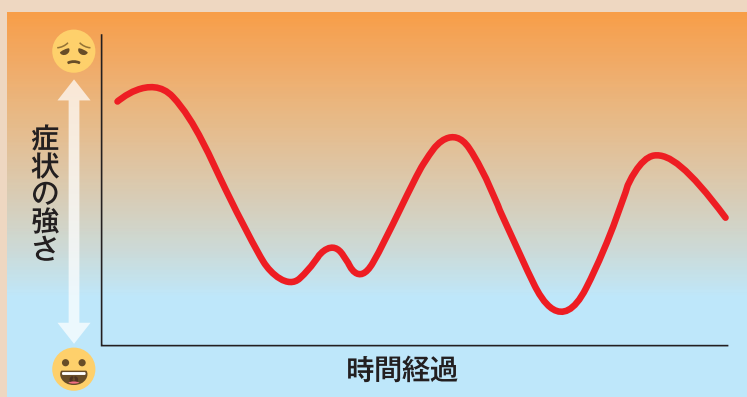
アトピー性皮膚炎は、さまざまな要因が複雑にからみ合っており、完全に治すというのは現代医学でも難しい病気です。
塗り薬だけでなく、体の内側からも正しいケアを行うことで
症状を軽減させて、日常生活を支障なく
過ごせるようにすることが大切です。

アトピー性皮膚炎は良くなったり 悪くなったりをくり返す湿疹

アトピー性皮膚炎は、皮膚にかゆみのある湿疹があらわれて、その状態が良くなったり悪くなったりをくり返す病気です。湿疹が治ったように見えても皮膚の下ではまだ炎症が残っていることもあり、自己判断で治療を中断しないようにしましょう。

「アトピー性皮膚炎の皮膚」と 「健康な皮膚」の違い

人の皮膚は、細菌やアレルゲンなどの刺激物から体を守り、水分を保持する「バリア機能」を持っています。健康な皮膚ではこの機能が正常に働きますが、アトピー性皮膚炎の皮膚ではバリア機能が損なわれ、乾燥してカサカサしていきます。この状態では刺激物が皮膚に入りやすくなり、炎症やかゆみが引き起こされます。



アトピー対策は、スキンケア、そして体質改善につながる漢方の力!



アトピー性皮膚炎におけるスキンケア

アトピー性皮膚炎の治療には、乾燥を防ぎ皮膚のバリア機能を保つスキンケアが重要です。症状の改善と悪化を繰り返すため、症状が軽い時もスキンケアを続けることが大切です。スキンケアの基本は、「清潔な皮膚を保つこと」と「保湿で皮膚のうるおいを保つこと」です。この2つを正しく行い、皮膚のバリア機能をしっかりと保持しましょう。

スキンケアのポイント

- ① 適切な洗浄: 低刺激の石鹸や洗浄料を使い、優しく洗う。
- ② 保湿: 乾燥を防ぐために、セラミドやへパリン類似物質を含む保湿剤を使用する。
- ③ 低刺激の製品を選ぶ: 防腐剤や着色料、アルコールを含まない製品を選ぶ。
- ④ 保護膜の形成: ワセリンなどで肌を保護する。



主な漢方対策はこれ!

アレルギーや皮膚疾患に対する漢方の考え方とは?

漢方では「内因があると、外因をうけ易くなる」と考えます。基本的には内因などによって体の防御力が低下すると、こうした外因の影響が大きくなると考えます。漢方治療の特徴は、症状に対応した対処療方と並行して、発症につながる体質的要因を改善する病因治療を中心に行っていきます。

漢方で考える皮膚炎のタイプと治療方針

- ① 蒼白色の皮疹『寒湿(かんしつ)』タイプ
→体の余分な水分を除いたり、体を温める漢方の使用+体質的要因を改善する漢方の使用
- ② 腫れてジュクジュクした『湿熱(しつねつ)』タイプ
→炎症を鎮める漢方を使用+体質的要因を改善する漢方の使用
- ③ 乾燥と痒みが強い『血虚内燥(けっきょないそう)』タイプ
→栄養を補い、肌に潤いを与える漢方の使用+体質的要因を改善する漢方の使用
- ④ 肌がくすんで黒っぽい『瘀血(おけつ)』タイプ
→炎症は落ち着くものの、乾燥や痒み、肌のゴワゴワ感や色素沈着が残ることがあります。血流がよくなる漢方を用いて、栄養素を全身に巡らせます。



ご相談は当店まで



こころとからだに自然の力
漢方療法推進会